

外国人生徒等に対する取り組み事例⑥

東京都立 六郷工科高等学校

全日制・単位制
全学科に特別入試枠を設置
全教職員対象の研修
ユースソーシャルワーカーとの連携
多文化コーディネーターの配置
生徒間の交流と協働

東京都で唯一、外国人特別入学枠を持つ工業科の高校です。全教員が参加する研修が充実していて、日本語が流暢でない外国人生徒等との話し方や、在留資格についての研修を開催しました。生徒の居場所づくりやダイバーシティ、キャリア教育などにも積極的に取り組んでいます。



学校名	東京都立六郷工科高等学校	所在地	東京都大田区
課程・制度・学科	全日制・単位制・工業科		
特別入学枠	有	措置	—
全校生徒数（人）	392	外国籍生徒数（人）	13
特別枠入学者数（人）	7	日本語指導が必要な生徒数（人）	14

プロダクト工学科、オートモビル工学科、システム工学科、デザイン工学科、デュアルシステム科という5つの科があります。2018年度入試からプロダクト工学科とデュアルシステム科に外国人生徒等の特別入学枠（特別入学枠）を設置し、2021年度入試からは全ての学科を対象に外国人特別入学枠を設けています。全校生徒の約半数は卒業後に就職するため、職業人としての立ち居振る舞いができることと、就職試験に合格できる学力の定着を教育目標にしています。

生徒の実態・とりまく状況

今年度（令和3年度）は特別入学枠で7名が入学しました。特別入学枠は来日後3年以内の生徒に適用される入試制度のため、一般入試でも10名の生徒が入学しました。

ネパールにルーツをもつ生徒が多いです。アジア出身の生徒からは、「日本の科学技術を学びたい」、「母国との橋渡しをしたい」、「母国に帰って母国のために活躍したい」という工業高校ならではのニーズがあります。学年トップの成績をとるのが外国人生徒等であり、特別入試枠で入学した生徒は努力家で成績もよい生徒が多いです。これまでに東京都教育委員会から努力を認められて表彰された生徒が2名います。



受け入れ体制

在留資格の把握：外国人生徒等のための個人カードを作成し、在留資格等を把握しています。また、外国人生徒等が個別で弁護士に相談できる機会を設けています。

校内研修：全教員を対象に日本語コミュニケーション研修を行っています。講師は、日本で働く外国人や、外国人を雇う企業研修を担当している会社です。目的は外国人生徒等と教員に時に起こるミスコミュニケーションについてです。その他、昨年度（R2年度）は、在留資格についての研修を通年で行いました。

通訳の配置：保護者会や三者面談等、必要な時には随時通訳を手配しています。

学習指導・支援の工夫と特徴

日本語指導

放課後に日本語理解教室を週4回（各70分間）開室しています。多文化共生スクールコーディネーターの他、NPO法人IWC国際市民の会の方が日本語指導を行っています。IWCからは、毎回4名が日本語学習支援のために来校しています。

キャリア支援

ロールモデルとの出会いづくり：日本で活躍するロールモデルとなる先輩との出会いの場を作っています。

ユースソーシャルワーカーとの連携：キャリア教育を行う上で、ユースソーシャルワーカーと連携しています。

各種検定のサポート：多文化共生スクールコーディネーターを中心に、英語検定や漢字検定、日本語能力試験といった検定試験の支援を行っています。

進路ガイダンスの実施：年に1回「日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス」を校内で開いたり、近隣の夜間中学校からの個別面談を随時受け付けたりと、高校入学への入口から支援しています（高校入学にあたっての進路ガイダンス）。出口では、高校から上級学校へ進学する生徒のための進路ガイダンスを行っています（外国につながる高校生のための進路ガイダンス）。

特色ある取り組み「生徒間の交流と協働」

居場所づくり：工業科では、他の科に在籍する同級生と交流する機会が少ないです。国際理解教室は全ての科の生徒が集まる機会なので、外国につながるのある生徒同士がつながり、居場所と感じられるような交流活動を大切にしています。

多文化共生スクールコーディネーターのかかわり：生徒同士という横の関係でもなく、教師生徒という上下の関係でもない「ななめの関係」として生徒に関わっていて、生徒たちにとって話しやすい相手であり、いい関係性を築いています。

多文化理解活動：ネパールや南アジア出身の生徒が多いので、日本に住むネパール人の話を聞いたり、パキスタンやインドの映画を見て意見交換したりしています。また、日本文化体験フィールドワークや、大田区スピーチコンテストによる自国文化紹介なども行っています。

日本人生徒と外国人生徒等の協働：多文化共生スクールコーディネーターの支援をもとに、外国とつながりのある生徒と日本の生徒と一緒に参加できる企画を通して双方が歩み寄る高校を実現しようとしています。

学外との連携

多文化共生教育ネットワーク東京（TEAM-Net）のサポート：高校や中学校の教員、大学の先生、弁護士、外国人を支援している NPO 法人等とのネットワーク組織として生まれた多文化共生教育ネットワーク東京（TEAM-Net）とも連携し、進路や生活の上で日本語がわからないことによる困難があるとき、サポートできるようにしています。

東京都の都民安全推進本部との連携：多言語の避難訓練を計画しています（コロナ禍で開催には至っていません）。

今後の取り組み

多文化共生コーディネーターの役割：多文化共生コーディネーターは日本語指導員として外国人生徒等の日本語能力の把握はできていますが、学科の成績（評定）や単位取得に関するコーディネートまで踏み込んでいないところがあります。この点をどのように対応していくか考えていきたいと思っています。

工業高校としての日本語学習：工業高校の学習内容や実習をサポートするための日本語学習か、現在行っているような日本語学習のどちらを優先させるのか、悩んでいます。

日本語の到達目標の設定：日常会話においては話したり、聞いたりできますが、読む・書くに困難のある生徒が多いです。また、日本語の正確性に欠けているため、日本語能力試験や漢字検定を通して正確さを意識させるような到達目標が必要だと考えています。

ヒアリング実施日：2021年10月8日